



INDONESIA MISSION



発行：日本福音教会(JEC) インドネシアミッション

〒662-0896 西宮市上ヶ原六番町2-42 西宮福音教会内 TEL：0798-51-5100

郵便口座：00970-3-313875 「インドネシアミッション」

HP：<https://indonesiamission.info/>



ネリの家で出たお昼ごはん

変わらないお祈りとご支援を心より感謝いたします。

上の写真はボルネオ保育所(幼児教育所)園長ネリの家でご馳走になった昼食です。保育所のあるグンジュマ村へは、バイクのうしろに乗って、川はいかだで渡って、それから最後村に入るには竹で編んだ橋を渡っていきます。(いかだを操縦するおじいちゃんには「あんだ、外国人？オランダ人か？」と訊かれました(笑)。

ボルネオ保育所ではこの7月1日に第一回目の卒園式があり、年長さんの6名が卒園しました。まだ園の建物はなく、壁のない屋根だけの仮の場所で、とにかく手探りのスタートでしたが、この1年間、村の幼い魂は聖書のみことばに立った教育を受け、イエス様の事を聞いたのです。ハレルヤ！そして、その中心には夢と信仰を握って汗を流す「人」ネリがいました(箴言14:4)。とにかく前進しています。続けてお祈りをお願いいたします。

インドネシアミッション代表 高橋めぐみ



ジャワ族の黒糖飴です♡

グロリア寮 I 寮生、ATI神学校ボルネオ聖会 (BBMZ) 参加報告

デルフィ(エンティコン・グロリア寮 I 舎監)

今年4月24日から26日、イドルフトリ(断食月明けのお休み)にATI神学校で第32回ボルネオ聖会が行われました。西カリマンタン各地から大勢の人達が集まりましたが、エンティコン・グロリア寮 I から7人の中高生が参加しました。最初、この聖会を案内したときは18名の子どもたちが参加を希望しましたが、しかし、蓋を開けると交通費(エンティコンとアンジュンガンは約240Km離れています)が足りず参加をあきらめざるを得ない子どもたちもいました。

3日間の聖会のテーマは「クリスチャンライフのステewardシップ(箴言3:1-10)」でした。参加した子どもたちはとても祝福されて「来年もまたぜひ参加したい!」と言っています。彼らは、この聖会から寮に戻ってからはより熱心に、喜びに満ちて賛美するようになりました。寮に戻っての最初の礼拝では、そのホットな感動を笑顔で証してくれました。

聖会では彼らは大勢の会衆の前で、ダヤク族の踊りを披露しました。緊張したけれど、これを通して自分にもっと自信を持つことができるようになったと思います。



聖会で披露したダヤクの踊り



ボルネオ聖会

ボルネオ聖会の準備から聖会の動画はこちらのQRコードから



ダヤクの踊り動画はこちらのQRコードから



ATI 神学校 卒業の証し ムンキン (胡椒サポート奨学生)

シャローム！ インドネシアミッションの皆様、支援者の皆様、主にあってご挨拶を申し上げます。

私は先日7月7日にATI神学校を卒業する事ができました！ 卒業論文も無事に終える事ができました。4年間の神学生生活を経済的な支援と祈りによって支えてくださったスポンサーの皆さん、めぐみ先生、インドネシアミッションの皆様には心からの感謝の気持ちを伝えたいと思います。

祝福の源である神様が、いつも皆さんを祝福してくださることを祈っています。どうかインドネシアミッションで支えてくださる皆様が、主イエス・キリスト様によって豊かな喜びと祝福に包まれながら奉仕する事が出来ますように。

卒業後、私は8月からシンタン地域のある教会で3年間の奉仕に入る予定です。どうか神様が私を助けてくださり、多くの人に祝福を与えることができるように私のためにお祈りをお願いいたします。

スルートウンパワン・グロリア寮IIの中学生時代、ブンカヤン・ベラカ寮の高校生時代、そしてATI神学校での神学生時代、長い間支えてくださった事を、心からありがとうございます。胡椒ミッションでも高校の学費や神学校での必要をサポートしてくださったことも本当に感謝しています。



卒業おめでとう！

ここに感謝の気持ちをお伝えします。そしてもう一度、心からありがとうございました。神様の祝福がありますように！ 心から感謝をこめて。

●族ミッションハウスの働き

タヨナ兄



ミッションハウスの礼拝風景

●族ミッションハウスで弟子訓練中のエズラ兄の証し

私は2回の離婚を経て、現在の妻との間に2人の娘がいます。私はB市で生まれ、その町の銀行で働いていました。私は自分の人生に落ち込み、2015年には違法薬物に手を染めていました。ある人が私を教会に誘ってくれましたが、私はキリスト教を大変軽蔑しており、行くつもりはありませんでした。しかし、ある日曜日に、その人に買い物に誘われ、綺麗な服を着てくる様に言われました。それでそのように出かけて、一軒のお店に着くと、入り口で1枚の紙を渡されました。その紙を見て私はそこが教会であると分かり、驚きました。牧師が説教の中でイスラム教を批判したので、私はとても腹が立ちました、しかし説教の終わりの祈りの時、なぜか知らないうちに涙が流れました。

それから教会に行くことはありませんでした。しかし、ある日、友達がある伝道集会に誘ってくれて、初めは行くつもりはありませんでしたが、結局行く事になりました。その集会には、刺青をした人が証しをしていました。私は何か感動し、気付いたら前に出て、祈って下さいとお願いしていました。その時から、私はしばしば幽霊の夢をみるようになりました。

私は主イエス様に挑戦しました。私には長い間会えていない子どもがいたので、もしも子どもの声を聞くことが出来るなら、イエスを信じますと言いました。そうしたら、実家に帰ると、私の子どもが電話をかけてきており、びっくりしました。私はそれでも信じられず、再び神様に言いました。もしも子どもが会いに来るなら、イエス様を信じますと。そうしたら、その時は私の誕生日だったのですが、私の母が誕生日のサプライズとして、子どもを連れてきました。

しかし、イエス様を信じる事は簡単なことではありませんでした。再び神様に、しるしを求めて挑戦しました。そうしたら夜、私は2人の人が私を呼んでいる夢を見ました。夢の中で私を呼んだ人は、次の日、教会での説教者で、私に御言葉を語りました。それで、私はすぐに洗礼を受けたいと思いました。その教会では証をするよう頼まれました。しかし私の証しはこっそり録画されていて、その映像は拡散されて私の両親にも届きました。両親は私をののしり破門し、私は家族の証明や権利を失いました。その時今の妻と出会っていたのですが、彼女は私と共にクリスチャンになると言ってくれました。

私たちには人生の目的がわかりませんでした。信仰もはっきりせずイスラム教にもどりかけたりしました。それから西カリマンタンのM市にまで引っ越してくる事になり、そこで、タヨナ氏に出会いました。タヨナ氏は私たちを信仰に導いてくれました。わかったことは私は多くの暗闇の力に縛られていたのです。氏に祈ってもらい、イエス様の御力により解放されました。それ以来タヨナ家に行って、霊的に導きを受けています。私たちは共によく祈ります。子どもが与えられるようにも祈りましたが、神様は祈りに応えてくださり、2人の娘を与えられました。これが私たちの証です。皆様の祝福となりますように。

サラワクカリマンタン島西部地図



エズラ兄と家族

エズラ兄たちの祈禱課題

- 族ムスリムから改宗したエズラ兄夫妻の信仰が成長するように
 - 定職につくことができるように
 - 神学校での学びを神様が助けてくださるように
 - 家族(親戚)全員が、イエス様を信じる事が出来るように
 - 月に一度、エズラ兄の家で、礼拝・聖書の学びを持っています。エズラ兄たちは、友人、知人などを伝道のために、またその人たちの課題を祈るために連れてきています。
- 彼らがキリストのうちに成長するように。

ミッションハウス



私は自分に与えられた賜物が活かされて私にしかできない奉仕ができれば嬉しいと思ってきました。2000年のアンテオケのセミナーに参加した時に、山口博子さんの証を聞きました。彼女は、私が大学時代に活躍していたゴスペル・シンガーで、大好きなシンガーの一人でした。

その当時彼女はアメリカや南米の教会を訪ね、日本語の歌を通して、特に日本人一世、二世の人たちに仕えているという証しでした。その時、「私には歌うことは出来ないけれど、日本食をもってなら、私にもこのような働きが出来るのではないかと」思いました。日本食を利用して外国で生活する日本人や宣教師を励ます働きがしたいというビジョンが与えられました。このことは、ずっと私の中にあり、インドネシアや中国・カナダを訪問した際には日本食を作って、現地の人や日本人と日本食を楽しんで来ました。

カリマンタンのATI神学校アンテオケ館やバリを訪問した際には日本人の集まりを持ち、お正月にはおせち料理を作りました。



グロリア寮Ⅱでチキンカレー作り



バリ日本語集会 集会後のランチ焼きそば

またインドネシアでの宣教支援をサポートするために教会でお菓子やお惣菜の販売もしています。(教会では販売を助けてくれる人も与えられ、また毎回購入してくださる方もいて感謝です。)先日ヒルチャーチでめぐみ先生がメッセージの奉仕をした時にインドネシアランチを作らせていただきました。これからもインドネシアミッションのデピュテーションの一環としてこのような働きを続けさせていただければと願っています。宣教地の食事を食べることで宣教地をより理解できると思います。



カリマンタンで作ったおせちと御雑煮

また、訪問した際にめぐみ先生と一緒に未伝部族●族の訪問を現地スタッフとするようになりました。彼らは外国人が好きで私たちが訪問することをとても喜んでくれました。イドゥルフィトリ(イスラムの断食明けのお祭り)の時の訪問時にはどの家でもたくさんのお菓子とごちそうが用意されていて、私たちが美味しい、美味しいと食べるのをとても喜んでくれました。時には料理の作り方などを聞き話も弾みました。めぐみ先生が帰国してからも、これまでの繋がり、今も続けてインドネシアに行き、現地の働き人たちと共に、宣教の働きを続けています。



2019年イドゥルフィトリ●族訪問



ヒルズチャーチのメンバーと

一緒に食事をするというのは、人との関係を近くします。おいしいものを食べたら、心の緊張がふわっと解けていきます。食事には、そんな力があると思います。また、一緒にその国の食事をすることでお互いが理解しあい、一つになれる。このことを神様が教えてくださいました。私は食べることが好きです。食事を作ることも好きです。現地の料理を再現し、みんなと一緒に食べることはもっと好きです。

2018年に36年間務めた府立高校を退職しました。あと5年仕事を続けることもできましたが、退職することにしました。私ぐらいの年齢になると孫の面倒をみたり、両親の介護にと忙しい人が多いです。私は両親もすでに天国に送り、シングルなので子供の助けや孫の世話をする必要もない。「この時間も両親がくれたもの、だからもっと有効に使いたい。」と思い祈りました。2019年に長い間やってきた教会の役員を辞し、食事でもって人を励ます働き「もぐもぐミッション」の働きに時間をさけるようになりました。私が出かけるときには教会のメンバーを始め、祈りで一緒に旅をしてくださる方々が多くいます。

神様がしてくださる素晴らしいことを分かち合えたほうが、もっと喜びも大きいのではないかと思います。できるだけ多くの人にスケジュールを渡して祈ってもらうようにしています。宣教の働きは一人でするのではなく協力し分かち合っているものだからです。そして、祈りは鍵だからです。

これからも与えられている賜物を生かして私にできる奉仕を続けていきたいと思っています。今学んでいる日本語教師の学びも役立ってくれたらいいなと思いますしインドネシア・スルートウンバワンで裁縫・編み物・お菓子作りなどを子供や舎監たちに教えて寮の自立や村の生活改善につながる事ができればいいなと願っています。

ソトアヤム



ナシゴレン



－ 祈りのリクエスト －

ATI神学校

◎新年度がスタートしました。神学生の祝福と神学校の経済のために。

3つの学生寮共通

◎子どもたちの教育、霊性、生活指導が良くなされていくように。

◎指導する舎監たちの知恵と霊性のために。

エンティコン・グロリア寮Ⅰ

◎公道から寮への道であと1ヶ所地崩れ対策が必要です。急斜面での工事に知恵が与えられるように

スルートゥンパワン・グロリア寮Ⅱ

◎寮の改修工事が進んでいます。主の守りと必要の満たしのために。

◎高原野菜プロジェクトなど計画中です。寮の経済的自立につながるように。

ブンカヤン・ベラカ寮

◎ベラカ寮が地域の必要に応える寮として運営していきけるように。

ボルネオ保育所（幼児教育所）

◎保育所の建物が与えられるように。

政府の認可手続きが進むように。

奨学生（中高生寮出身者）

◎必要が満たされ、誘惑や事故から守られしっかり学べるように。

◎修士修了間近のスインとドノのために。卒業後の働き。

プニティ・アナスタシス教会

◎CSの子ども達の数が増えてきて場所が狭くなり、教会の後ろを増築予定です。主の助けがあるように。

沿岸部族への働き

◎救われた●族の人達が霊的に、道徳的に成長できるように。

◎●族出身のハリジョ氏家族にいつも主の助けがあるように。

その他

◎8月1日～15日と12月27日～1月3日に予定されているミッショントリップが祝福されるように。



愛知インドネシア福音教会訪問

パークサイドチャペル
小池 有

愛知県のパークサイドチャペルでアシスタントパスターとして仕えている小池有です。僕は今、同じ愛知県の安城市というところにある「愛知インドネシア福音教会」での日本語礼拝の中で、奉仕を5回ほどさせていただきました。

この教会は、日本のインドネシア福音教会の一つで、安海師のもと、ATI神学校の卒業生達が活躍しています。この礼拝の中では、日本人の方が何名か集まり、共に礼拝し、賛美を捧げています。礼拝を通してインドネシア人も日本人も関係なく一つとされています。



僕がこの教会でいつも感じていることは「暖かさ」と「宣教への情熱」です。まず、この教会の人たちはいつも笑顔です。最初行った時から、教会のリーダーや教会の方々が暖かすぎるほど家族のように迎えてくれました。そのおかげで、いつも「ただいま」と言うほどです。僕の教会のメンバーも連れて行ったことがあります。すぐに友達になっていました。この暖かさはどこから来ているのだろうと考えると、やはり「イエスの愛を受けた者として、人々を愛していきたい」という願いからだと思います。礼拝の中で、奉仕者の多くはインドネシア人ですが、日本人のために日本語で賛美を捧げ、祈り、証までしています。うまく話せない時もありますが、神の愛を伝えたい！という情熱が彼らを動かし、私たちに感動を与え、イエスの愛を思い出させてくれるのです。

そして、あるリーダーが毎回のように僕に「日本のために頑張りましょう！」と、満面の笑みで言ってくれます。

インドネシアの方が日本にまで来て、日本のためにここまでしてくれている。福音がいかに素晴らしいものか、彼らが笑い、そこにいるだけでそのことがひしひしと伝わってくるのです。僕もこの教会のために何か出来ることを全力で応えたいと思います。また何より素晴らしい神様のためにこの人生を使っていきたいと思います。



彼らの情熱が、また福音の素晴らしさが、今日も僕を宣教に向けてくれます。この素晴らしい働きに携わることが出来て心から感謝しています。神様今日もありがとう！！

愛知インドネシア福音教会日本語礼拝のみなさん

